新春の空に舞う鶴凧

１月２日（金）、新春の鶴凧揚げ大会が岩木川河川敷で行われ、鶴凧の会（石村幸男会長）の会員や来賓約 20 人が参加しました。

鶴凧揚げ大会は、毎年、８月のつるたまつりの期間中と１月の２回開催されていますが、昨年のつるたまつりでは、雨のため中止となりました。１年ぶりの開催となる今大会は、連日の大雪により河川敷の足場が悪く、当日も時折吹雪いたりとコンディションは良くありませんでしたが、参加者たちは、持ち寄った手作りの鶴凧を上手く風にのせ、勢いよく大空に飛ばしていました。

大会後には、表彰式が行われ、「新春鶴凧大賞」に西村優秀さんが選ばれたほか、小田桐貞三さん、石村会長が入賞しました。

△風に乗り新春の空に高く舞う鶴凧

あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場総務課まちづくり班（内線264）までお知らせください。

リンゴの剪定技術を学ぶ

１月４日（日）、毎年恒例の新春りんご剪定会が町役場裏の園地で行われ、町のリンゴ生産者約 150 人が参加しました。

剪定会は、鶴田地区りんご支会連絡協議会（秋庭隆会長）ほか各種農業団体の共催で行われました。出席した相川町長は「剪定作業はリンゴの品質を決める重要な作業なので多くのことを学んでほしい」とあいさつ。昨年に続き講師を務めた青森県りんご剪定士会の吉村初雄会長は「来年花が咲く花芽をとらないように長くなりすぎた枝を切ってください」と説明しながら剪定の実技を披露。参加者は吉村会長の実技を参考にしながら剪定のポイントを学んでいました。

△参加者に剪定の方法を説明する講師の吉村会長（右）

さらなる活躍を願う鏡開き

1月10日（土）、鶴田町柔道協会主催による鏡開きが武徳館で行われ、町の柔道少年団（太田明監督）の子どもたちや鶴田中学校柔道部の部員約30人が参加しました。

鶴田町柔道少年団と鶴田中学校柔道部では、毎年、個人、団体ともに東北大会や全国大会へ出場する好成績を残しており、今年もさらなる活躍が期待されています。

子どもたちは、寝技や立ち技などを中心とした基本の練習や乱取りで汗を流した後、神棚の前に整列。相川町長からも「一生懸命努力して練習を頑張ってください」との言葉が贈られ、今年1年の活躍と無病息災を願っていました。

△鏡開きの前には練習で汗を流しました。

無火災・無災害を新年に誓う

1月11日（日）、鶴田町消防団の出初め式が開催され、消防団員および婦人防火クラブ、消防署員約300人が参加しました。

寒空の中、丹頂大通りに整列した団員らは、「かしら一右！」の号令のもと、観閲者の相川町長に敬礼。人員・服装姿勢点検を受けた後、纏振りや分列行進を行いました。

続いて、国際交流会館では式典が執り行われ、鶴田町長表彰が5分団、町消防団長表彰が7人に贈られました。受章者を代表して、木筒分団の秋庭裕さんが「本日の感激を肝に銘じ、火災や災害から住民の生命、財産を守るため、いっそう教養や訓練に精励します」と謝辞を述べていました。

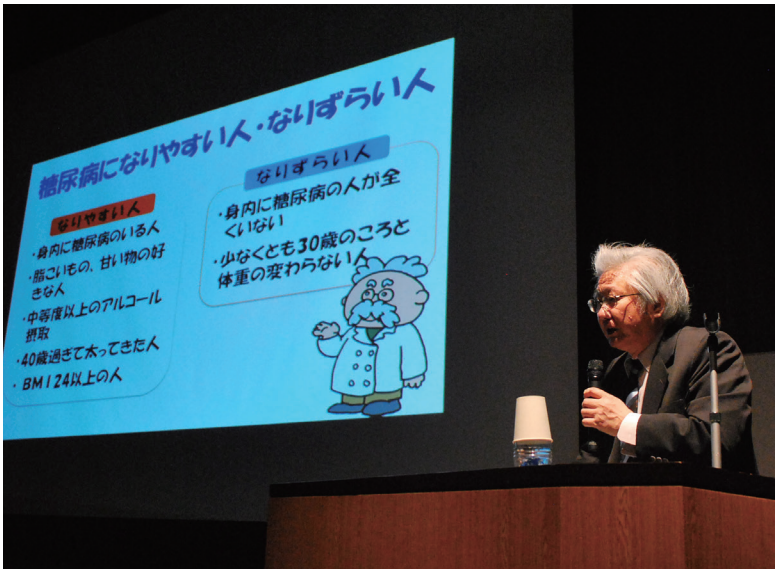
△分列行進をする婦人防火クラブの会員

糖尿病ってどんな病気?

1月15日（木）、国際交流会館ホールで、糖尿病講演会が行われ、町民約80人が参加しました。

講演会では、今村クリニック（弘前市）の今村憲市院長が「今さら聞けない糖尿病という病気」と題し、糖尿病とはどんな病気なのか、その合併症や予防法などについて説明。糖尿病治療のポイントとして、健診による早期発見や定期的な運動、治療を中断しないことなどを挙げていました。

さらに、糖尿病は進行すると、全身の血管障害につながり、「し（神経症）、め（網膜症）、じ（腎症）」の症状や脳梗塞、心筋梗塞などを引き起こすこともあるため、予防が一番大切だということを話していました。



△今村クリニックの今村憲市院長がスライドを使って講演